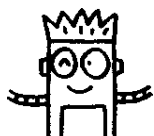


いのうただたか 伊能忠敬は、どんな人だったの



日本全国を初めて科学的に測量した、江戸時代の学者だよ。

伊能忠敬は、1745年に上総国かずさのくに小関村こせきむら（千葉県ちば九十九里町くじゅうくりまち）の名主なぬしの神保家の三男として生まれ、18歳のときに、下総国しもさきのくに佐原村さわらむら（千葉県ちば佐原市）の伊能家のむこ養子になりました。伊能家は、名主をしながら、酒造り・米商人・金貸し・水運などの仕事をしていた家でしたが、後つぎをなくし、借金で苦しんでいたのです。忠敬は、伊能家を立て直し、31歳で名主になりました。ききんのときに村民を助けたり、領主つだしの津田氏の財政を助けたりしたので、苗字みょうじをもつことと、旅行中は刀を差してもよいことどうちゅうたいとう（道中帯刀）を許されました。

隠居後いんきよごに天文学を学び、全国を測量して歩いた

1794年、忠敬は50歳で隠居し、勘解由かげゆと名乗りました。翌年、江戸に出て、天文方てんもんかたの高橋至時たかはしよときの弟子になり、天文学を学びました。当時の天文学は、緯度いど1度の南北のきよりが決まっていなかったため、忠敬はそのきよりを測るため、北海道の南東岸の測量を、幕府に願い出ました。幕府は、ロシアが進出しようとしていた、日本の北部を守るために、北海道のようすを知りたかったので、測量を許可しました。これが、忠敬の測量の旅の始まりで、56歳から72歳までの間に10回（うち1回は弟子たちだけ）も、日本各地の測量を行いました。その間に、幕府から実力みとを認められ、幕府の役人になりました。

全国地図の完成を見ずに、亡くなった

忠敬は、1818年に江戸で、74歳なで亡くなりました。彼の全国測量の結果が、弟子たちによって、225枚の地図からなる「大日本沿海輿地全図だいにっぽんえんかいよちぜんず」として完成し、幕府に提出されたのは、3年後の1821年のことです。

ことばの意味 天文方 江戸幕府におかれた、暦をつくる役職。